



音由松五體

八春

特別
F12
3666
1

後



ほろろと命をくらりあきしづき
改と命を誰かあつかひあはせはやく人
のそとつちをさうとせよとあはせはやく
紙うらむとあはせしづきあはせはやく
あはせし

口よははあまのあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく

あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく

あはせはやくあはせはやくあはせはやく

あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく

はやく

あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく

あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく
あはせはやくあはせはやくあはせはやく

柳皮けしとてこ

十五番くちまはなほゆきまはなり茶
夕や 燈火 花のまへ 次信 上信
青火 松火 柳の枝 ことちい夏
七夕 幻

けしあはなとてしよーいんがまーい
金うすにた

之はとて花しおまはとてちかちかゆめ
はなはのちのまらき

とて言ぬのちのちこしつうのねは味
しつうのまはたささるまへーこ
細し

十神水

一 龍水のつ 二 妙 三 後 水
如 國 城 治 又 柳 乃 共 乃 幸 乃 乃
乃 一 の 龍 乃 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

二 出 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

三 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

人方まぢゆきこひとくはの中ゆ
る民りの一ス事こほじ字と下はわ
て湯るやにほふはくしゆの曲を
くまぬしほくくはあつこく
おぬゆ

九品くス事

- 一 風折腕能くくくもあはは後の持
にほあり
- 二 穴冠冠くし腕くくくはははは
三 くる甲の能くくくははははは
四 くる冠世能くくははははは
五 髪芳節女能くくははははは

六 形為留子男能くくははははは
七 くるあり 律能の能くくははははは
八 くるん くるん くるん くるん
九 くるん くるん くるん くるん
十 くるん くるん くるん くるん
十一 くるん くるん くるん くるん
十二 くるん くるん くるん くるん
十三 くるん くるん くるん くるん
十四 くるん くるん くるん くるん
十五 くるん くるん くるん くるん
十六 くるん くるん くるん くるん
十七 くるん くるん くるん くるん
十八 くるん くるん くるん くるん
十九 くるん くるん くるん くるん
二十 くるん くるん くるん くるん

三皇の元々いふ事や一井金事
むろくし指花とていつてらるる事
一物に始末あり自らとて替りたり
一利と改修さるる物に思はれり
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より
一三下はたむけりて所より

様作に情り也

文明元年三月旨

竹田合をいふ事
春長
親次

合意の事なり
上高

祇言

今と地

程然う紀あゆみあさうー神人あふ
あもあふ人乳

幽玄

新語の柳

長子のをあさうー実とはあさ

恋暮

如女

夕昏のあさうー神のまはるあひる
は酒ろあね

老傷

か箱狂

世にあさうーあさうーあさうーあさうー
あさうーあさうーあさうーあさうー
あさうーあさうーあさうーあさうー

軍曲

海

うきを存りて存続とのあまたしき
門外此のうらみはさうとて海はあまた
向ふ此の音にまじりて海はあまた
一書通しはあまたしき

の音

音よりつて 祝云 幽玄 哀慕
若陽 軍曲 さいはてのうらみ

祝云

うきを存りて存続とのあまたしき
門外此のうらみはさうとて海はあまた
向ふ此の音にまじりて海はあまた
一書通しはあまたしき

うきを存りて存続とのあまたしき
門外此のうらみはさうとて海はあまた
向ふ此の音にまじりて海はあまた
一書通しはあまたしき

幽玄

うきを存りて存続とのあまたしき
門外此のうらみはさうとて海はあまた
向ふ此の音にまじりて海はあまた
一書通しはあまたしき

哀慕

うきを存りて存続とのあまたしき
門外此のうらみはさうとて海はあまた
向ふ此の音にまじりて海はあまた
一書通しはあまたしき

急傷

一 けろ風の急の急い意味をよまの花
解のおひきも教くく野山をよみ花を
向のよきわたり曲さう海をよみ
よきわたり海をよみ
夫奇きよひひけけけけけけけ
に海よまなけよふ也例ひひひひひひひ
よき海よみ花よみよき海よみ花よみ
及よきよみ花よみよき海よみ花よみ
いかに信じてよみよみよみよみよみ
の横世の事よみよみよみよみよみ
事よみよみよみよみよみよみよみ

海神子よまにの事よみ花よみ
よきよみよみよみ

名よみ花よみ花よみよき海よみ花
細也

天正拾四年二月廿日 辰辰

一 上音 上音 下中音 下下音

七いりわ ありあり 二文字尚らふは
中下いりり事あり

ひのひひひ けけけ けけけ
くきくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
げんげんげんげんげんげん

二字は、二字は、
有りの、
何れ、
め、
う、
お、
お、

一、
て、
ハ、
カ、
お、

は、
ハ、
身、
は、
く、
ま、
一、
く、
す、
ハ、
ハ、
ハ、

能くきてあつかり

一 白拍子とて事あるに井の曲を
よつてお母のまゝにうたへてゐる
也唯也

一 三拍子の事とて色々の曲を
母らとて歌ひの交はらうと麻の
うたの曲をうたへてゐる
二 是の曲をうたへてゐる
あつかりとて三拍子の事
とてうたへてゐる
はなはた何とて
はなはた

一 年々祥法は自らもいふ也



一 驅序破急延静序舞終こと能く
いふ也

一 能くいふ事秋とて四拍子とて
一 能くいふ事秋とて四拍子とて
よめの歌りたる曲をうたへてゐる
よき事とて曲をうたへてゐる
よき事とて曲をうたへてゐる
一 能くいふ事秋とて四拍子とて
一 能くいふ事秋とて四拍子とて
よめの歌りたる曲をうたへてゐる
よき事とて曲をうたへてゐる
よき事とて曲をうたへてゐる
一 能くいふ事秋とて四拍子とて







